



門遠8
號969
卷8

皇
明
日
三
七
辰

繪本金花詠卷之八

目錄

河並三右衛門公家の車 皇
河並三右衛門密書次親圖

河並三右衛門密書次親圖

河並三右衛門密書次親圖

河並三右衛門密書次親圖

河並三右衛門密書次親圖

河並三右衛門密書次親圖

繪本金花詠卷之八

皇
明
日
三
七
辰

伊賀又田の両士又江若小新ふる園
帯刀豫倉へ出府とれ事

其二

友衛漸々法法と親とね併にそ一器一園

昭谷草刀信書式板る園

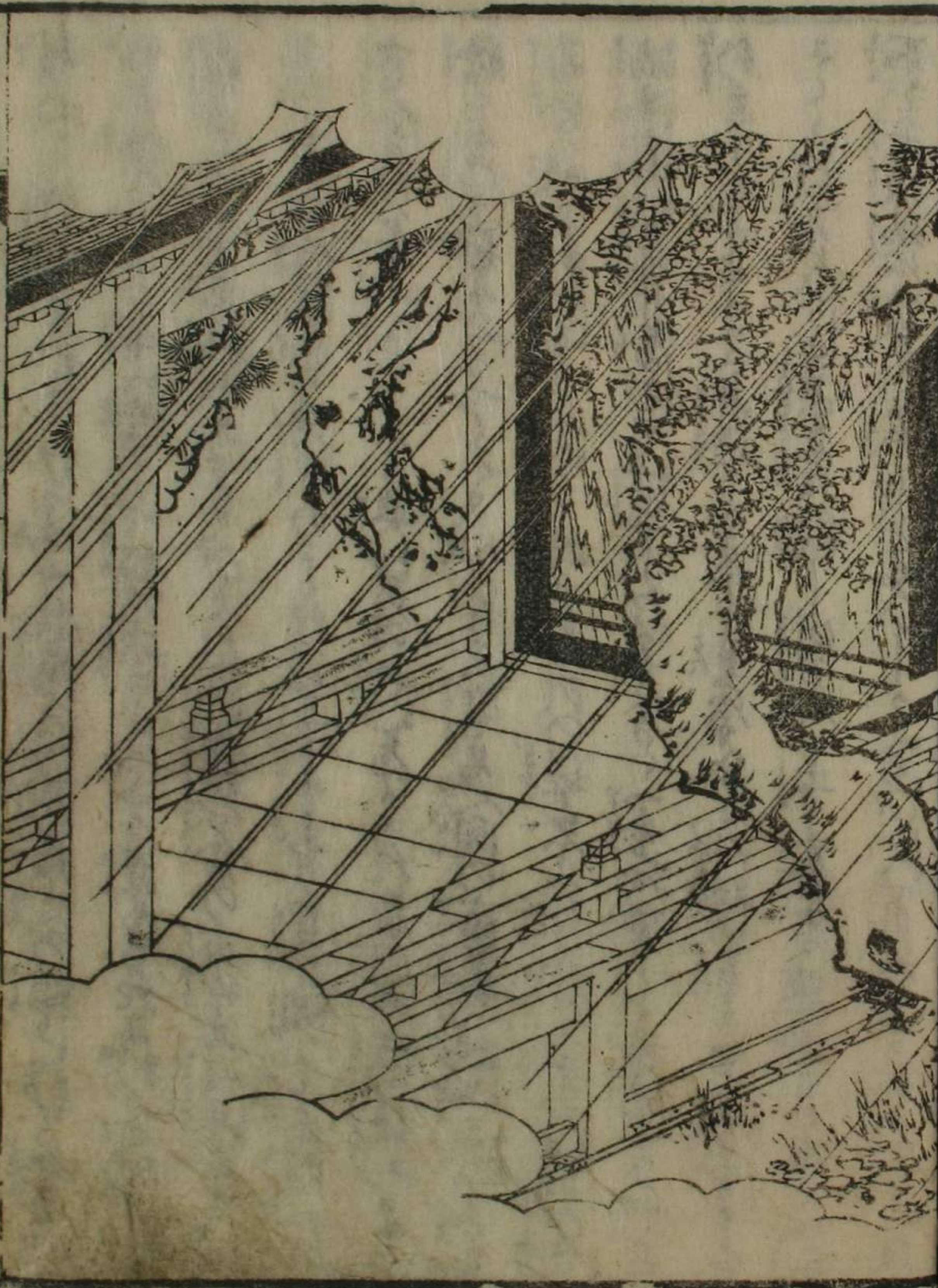
秋藤法八講成教く中居あに走園

繪本金花談卷之八

河並二右侍の心算事 昭谷草刀新成事

何方秋のゆらゆら宿小今春をりいあまやどうせよと大中臣乃
能宣物臣の趣りしと秋も冬来りてハ新玉の年もえり
あて何時しと先陰夫成射るし其三年既も昔時を年ぬ成りつと
岩城兵衛悪念のしと城んぬらも料りて喜なることと思惟を
九月中旬河並二右侍の瓜辺く招れお熟考らぬ女千代今ハ二十
云も三年の内より斯のごとくある時ハ大なる事しと
何ものか安んせぬゆら外れとすくるしけ後自然宣成ぬ
葉内と云は同汝思ひ入て女千代成判殺ぬるべし河並二も
領堂へ何時もてもあはれ思ふ事と云ふ一舎成地と云ふ年頃の事

河並三たは門



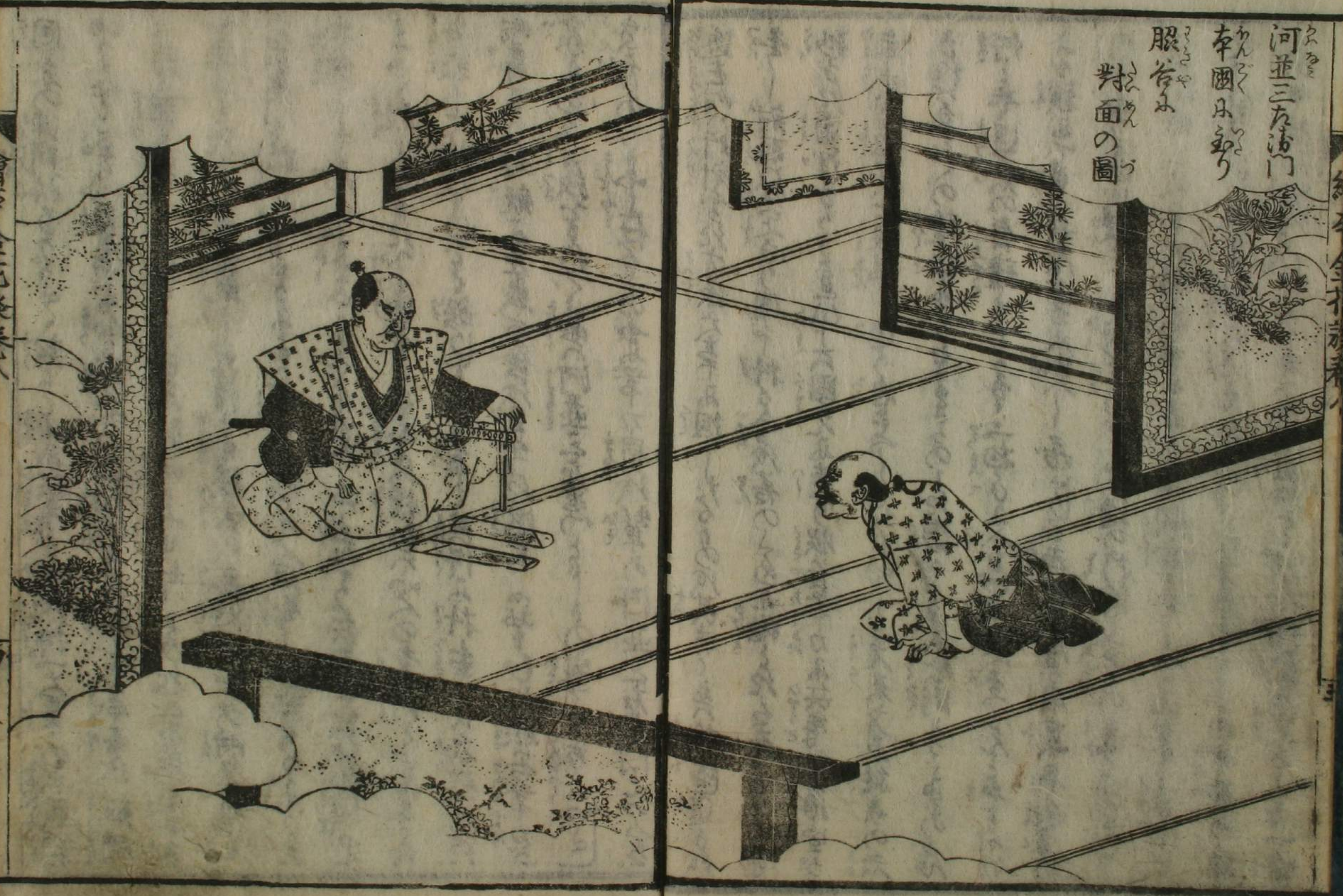
河並三たは門
密書を竊
圖



戦ふべし。河を安れりける。嗚呼兵隊の暴更の然しむる。
船も臨んです。今へ捨てられた。船も来りてある。
血も流れてす。船も来りてある。河並強合の市中。
兵隊の市中。兵隊の市中。兵隊の市中。兵隊の市中。
方へる。月信孤影。用更あり。兵隊の市中。兵隊の市中。
然るも己が。船も来りてある。兵隊の市中。兵隊の市中。
善悪の形も。船も来りてある。兵隊の市中。兵隊の市中。
漁漢。船も来りてある。兵隊の市中。兵隊の市中。
仍まされ。船も来りてある。兵隊の市中。兵隊の市中。
不と去。船も来りてある。兵隊の市中。兵隊の市中。

逃去。討取。舟。兵隊。市中。兵隊の市中。兵隊の市中。
何と。兵隊。市中。兵隊の市中。兵隊の市中。
顔も。兵隊。市中。兵隊の市中。兵隊の市中。
因も。兵隊。市中。兵隊の市中。兵隊の市中。
この。兵隊。市中。兵隊の市中。兵隊の市中。
父子。兵隊。市中。兵隊の市中。兵隊の市中。
士の中。兵隊。市中。兵隊の市中。兵隊の市中。

河並三た油門
奉圖みり
服首み
對面の圖



同士の連判状あり。封トよみ兵隊が軍押。大軍の...
 けり。一國もゆるみ。あつた。物。の。心。を。奉。養。の。証。跡。
 され。樽。み。深。して。出。る。兵。隊。後。ま。も。か。ら。り。た。二。三。の。兵。隊。
 さま。さ。の。方。竄。し。九月。下旬。後。倉。出。進。せ。り。の。時。兵。隊。
 二。三。の。日。来。り。用。支。あ。り。て。人。を。一。刀。を。り。り。め。り。進。
 出。奔。し。て。兵。隊。ま。も。も。具。し。て。さ。ら。兵。隊。た。り。り。憤。り。
 さま。し。れ。け。り。下。部。あ。り。る。金。貨。惜。む。い。れ。の。事。お。と。め。り。六。
 赤。敷。し。て。松。の。の。を。怒。り。し。も。も。其。供。持。重。し。の。事。お。と。め。り。
 時。節。あ。り。却。疑。二。三。の。兵。隊。目。め。り。た。遊。者。お。お。む。れ。服。若。草。刀。が。
 家。お。お。り。後。さ。の。河。並。二。三。の。兵。隊。と。り。の。密。お。お。り。し。し。
 交。有。あ。り。ま。り。は。り。と。い。れ。草。刀。眉。以。撃。め。河。並。二。三。の。兵。隊。と。り。り。

え。来。相。撲。を。雷。槌。雲。若。婦。門。を。ま。り。後。倉。の。被。追。殺。の。後。あ。り。て。その。ゆ。
 西。に。か。し。て。註。進。し。り。り。の。後。や。ら。り。と。子。達。度。同。お。お。り。河。並。二。三。の。兵。隊。
 去。園。お。お。り。中。の。二。三。の。の。の。出。り。草。刀。が。お。お。り。た。後。倉。
 流。し。て。け。り。の。事。お。お。り。先。君。の。流。射。お。お。り。し。相。撲。を。重。し。と。
 中。の。す。で。お。お。り。の。事。お。お。り。兵。隊。後。倉。の。送。る。組。し。是。ま。て。お。お。り。の。
 共。計。詳。お。お。り。な。り。し。て。其。志。お。お。り。註。進。し。り。り。の。事。お。お。り。の。事。お。お。り。
 忠。仕。る。と。も。一。増。送。る。兵。隊。お。お。り。上。の。兵。隊。の。飛。科。お。お。り。の。事。お。お。り。
 兵。隊。お。お。り。け。り。の。一。命。だ。お。お。り。助。下。る。と。さ。ら。の。兵。隊。の。事。お。お。り。
 と。後。倉。お。お。り。の。事。お。お。り。兵。隊。の。事。お。お。り。年。の。評。定。送。る。の。の。事。お。お。り。
 後。倉。お。お。り。の。事。お。お。り。若。婦。門。を。お。お。り。且。慚。愧。し。し。
 後。倉。お。お。り。の。事。お。お。り。若。婦。門。を。お。お。り。且。慚。愧。し。し。



諸士
評定の
圖



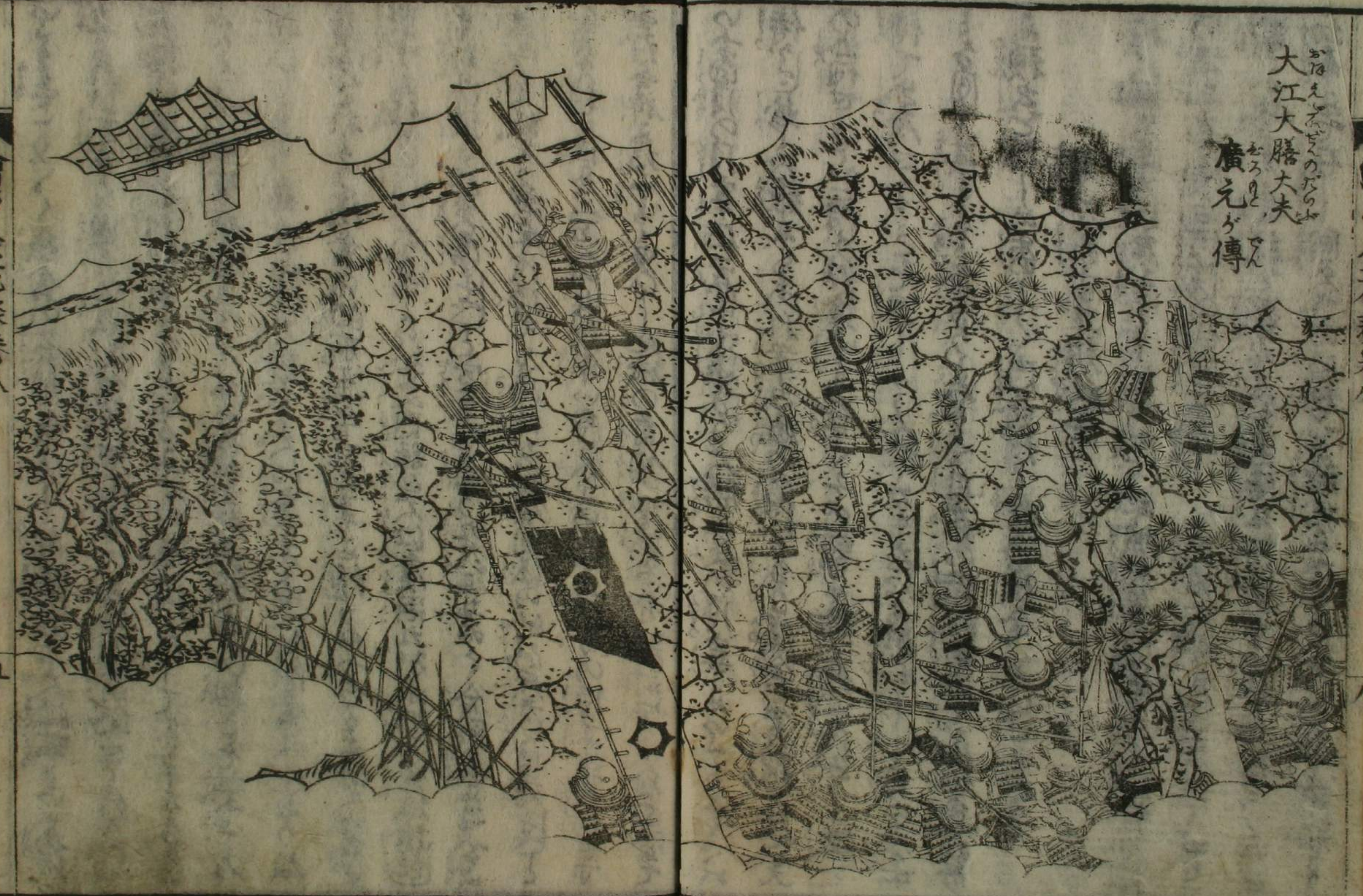
つらつらも負へた程の勝たれどもあつた二十箇年一回お款へ出ると同月
負うるとはいつか再び幸の是非は説くものあつた自然にわが
と裁かぬ負るべ敷重の飛料も極くもろろ絶しそのとたへは
某が志は極くまじまじ小兵庫の飛込出へぬ片時も是れ
服号氏の論を極めあつたりけしよ六足下へ中へ出るといつか
是れは究りぬきまじまじ兵庫の飛込出へぬ片時も是れ
市川後河進と某の由時後余の政勢と扱へた肥後平
大屋三郎宗遠後院の次女親義大膳大夫大に廣えけり
貞清の控又阿王若殿とまじまじとも唯貞清の控も忍び
事いふは取扱へた大膳大夫廣えりけり預書とまじまじ
由時後余の政勢の執権一月交りけり政事司より是れ月事と

いよ通月の月事と云ふ宗遠より大膳大夫の月事と云ふは
侍に参るべ難もあれ平刀殿の名代より後余も大膳大夫
の出付せりと侍け途中に在りその轎も執て預書出へて
侍て出付せりと云ふ一々平刀も大に感へり十目の月事
とも同く某もも首よりと云ふ自家の侍次田舎も侍次
も預書と持しめ参りし内々平刀の合め後余も是れを

平刀家士新状事

抑大膳大夫大に廣えりけり平城天皇の皇子二品に
の後亂るる後白河院の仙宮も在り右大平家院宣代
後平氏より平氏を平氏と海平切流めり後鳥羽院の
切希也在り一平天下の政勢と後余も是れを平氏

金瓶梅詞話



おほえとどきのたらし
大江大膳大夫
ひろ元が傳

金瓶梅詞話

多かりき南へ脱走の藩の者新詔へ近づくことと藩の者も
 多のりきことく侍が忠次郎は馬へ強倉を出しはるも廣えり
 なる者付こと終りも是も後々西へゆく思惟はし不詮を腰を
 帯しては吐き出しはるも事方も近國のりの強倉へ志は細
 きる侍もりては大阪の城へは来しを便りて七個は居りてふ
 恒例の先河の料理大膳さまの檣へ近づく進め奉るその意は
 立敷の事奉りてゆくも疾く侍が忠次郎は檣の右のりき
 預文と取持は秋の若きりと轡の中へ投入んとするは驚きおひ
 左右の近士同く驚りたり預文と入る世と様こころあるひは袖へ
 掴んで退ると豪勢の壮士少も動くは侍が轡の辺へ近づく
 取ると競ふ間左の方より二人の大男一人は近付轡の内へ射の

預文と取持は秋の若きりと轡の中へ投入んとするは驚きおひ
 左右の近士同く驚りたり預文と入る世と様こころあるひは袖へ
 掴んで退ると豪勢の壮士少も動くは侍が轡の辺へ近づく
 取ると競ふ間左の方より二人の大男一人は近付轡の内へ射の
 方へても収まるはとまらざるも果して今侍が忠次郎一人は
 大勢取掛りてとせりと操合内赤馬一通のこゝろに居りて
 侍の預文と見もふ封紙の上へ最末友千代が赤土服若
 帯の上へ書きしるは右の近士と押しの轡の中へ下させ大膳を又の徒
 士等の道へ後々北國の侍が忠次郎の警かぬは衣振守殿くもむた
 中へはえ来り侍が腕裏に秋の本の葉の風も散ること競幸の因も
 飛散りては綿のふくや法家豪胆やうみ化く侍が衣帯と
 なる平伏きこのは唐えがとま返り一處を挑けぬは眼に見んく
 母の何のるも友人護られせは帯力が赤土侍が忠次郎は陣圓

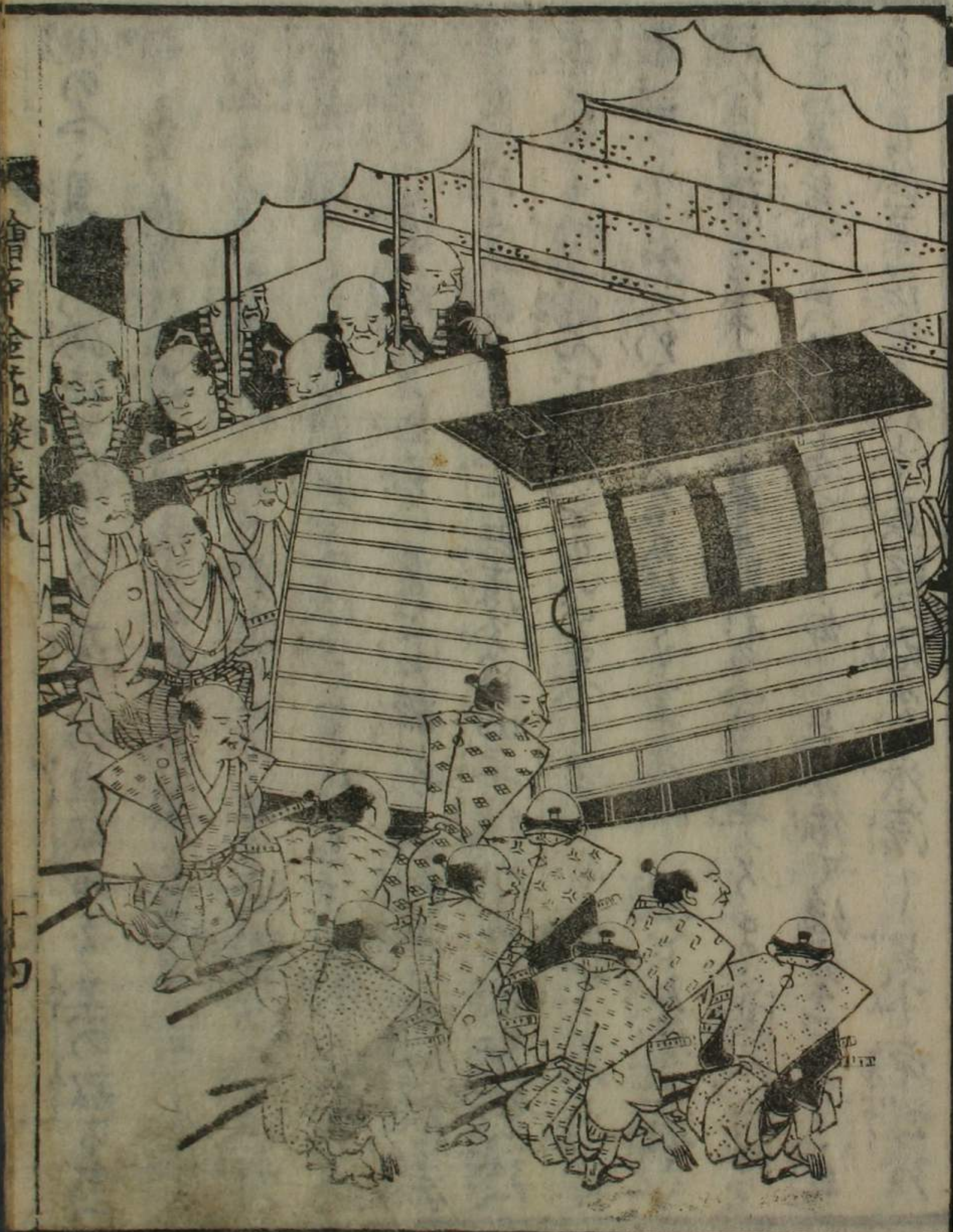


伊賀伏田の西士
大紅君
跡之圖

終る金持新巻

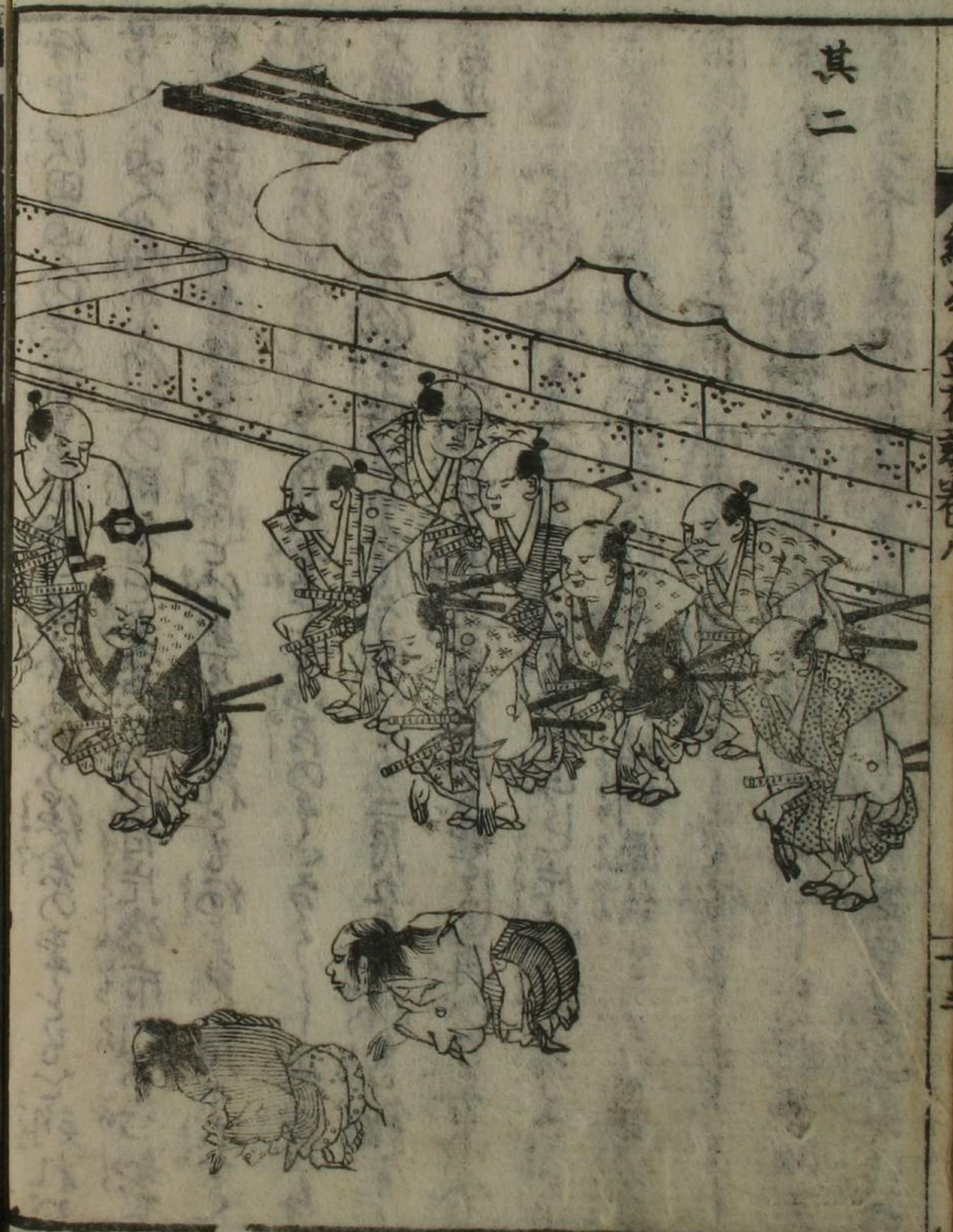
赤馬より来るる服者帯刀右預又の旨通すの事上裁必懸心なりと云
 根は言ふ待て圍城は持て出府はんこと裁懸入するもの其も法
 しく形を承る処より磨えあふ向ひが又一掃見せり百城は結末
 して出府の志を顧る服志練の事一方より控退く事幸ひ
 との中下かせれ轄はとあて城はむやられを扱てあふ懸ひ
 たえくの答に確一奉國とてゆるる是より磨え改めあふ
 かの預まは川幸の物獄と屋宇遠く後一けり裁判を加へれり有月
 宗遠預を公受れこれと握取左巻の村貞清もふしとせんと候を
 貞清の口今く嫉妬偏執は似たり取決る事あるれあふけり其
 まのあつめ収め再びあふる事あるくそ年す七め書あふ
 帯刀後金右出府より事

伊賀沢田あふの忠士皇親と犯奉玉みゆる後念の事ともと執れば
 帯刀あふのあふとの即智と美美し一は有片海市川も告知せ
 る出府の用意ある。百城と信する然れども何となく月日あふ
 持弓とる孤むえられとも正月の書ても出府の事さるり一は二月と
 大膳も度え改め承るあふ月さるりより。二月九日百城も館り
 あふ一これ帯刀の後念あふ出立をた用意をほ再び百城の
 と集め百城と扱とるそのも酒盃取とじ片端双十節あふ
 けり出府も兼控と携て懸ひあふ上は揚利備然とる。これ其
 油詰み引きての理非の的自も抱の用意あふに今般の事兵度改乃
 方ふの究めり調書と據(某も)の誠度ともこ一は承り居す
 手腹あふべ。某承りも懸るも通承の危怖必定あり。若又貞清其



繪本金瓶梅

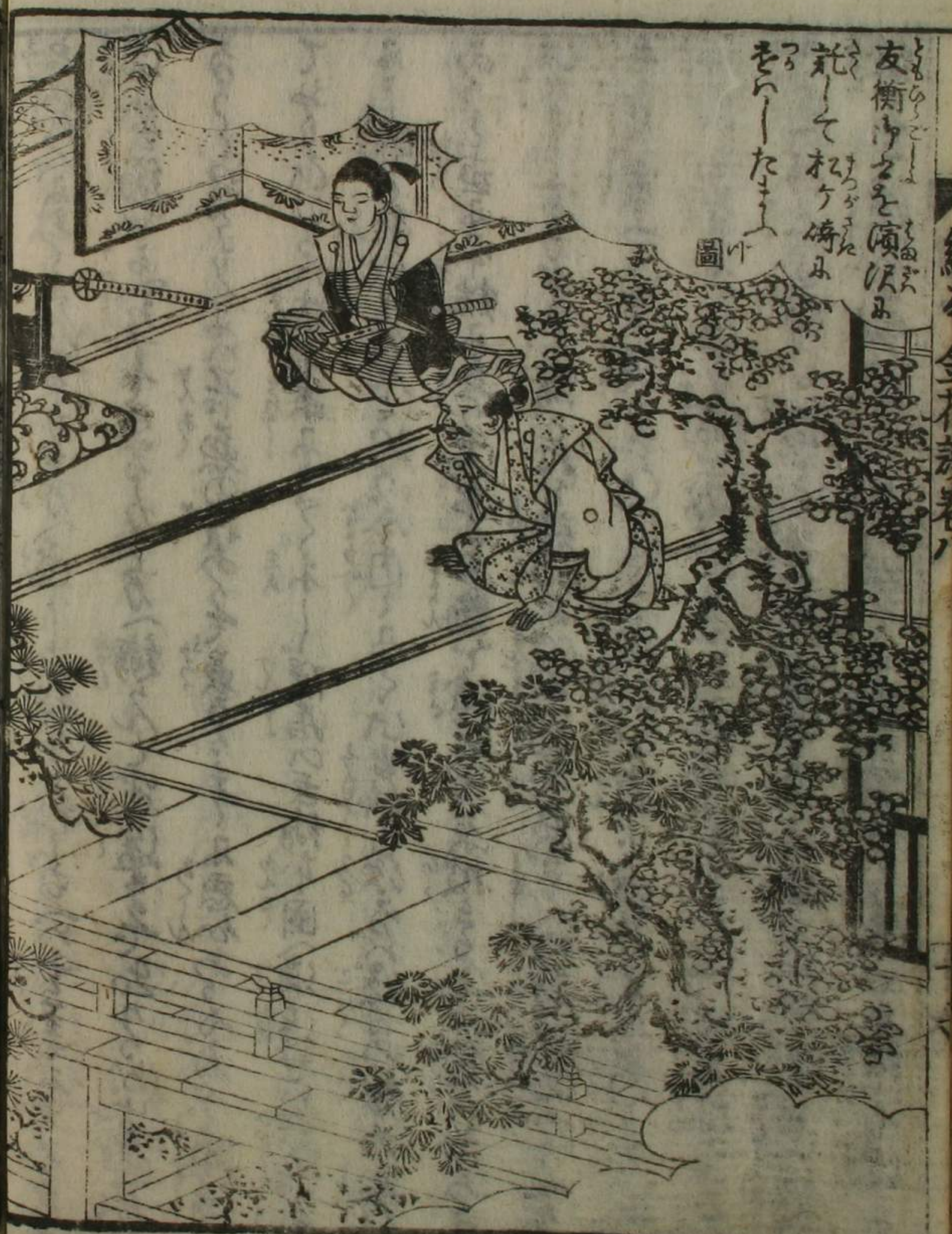
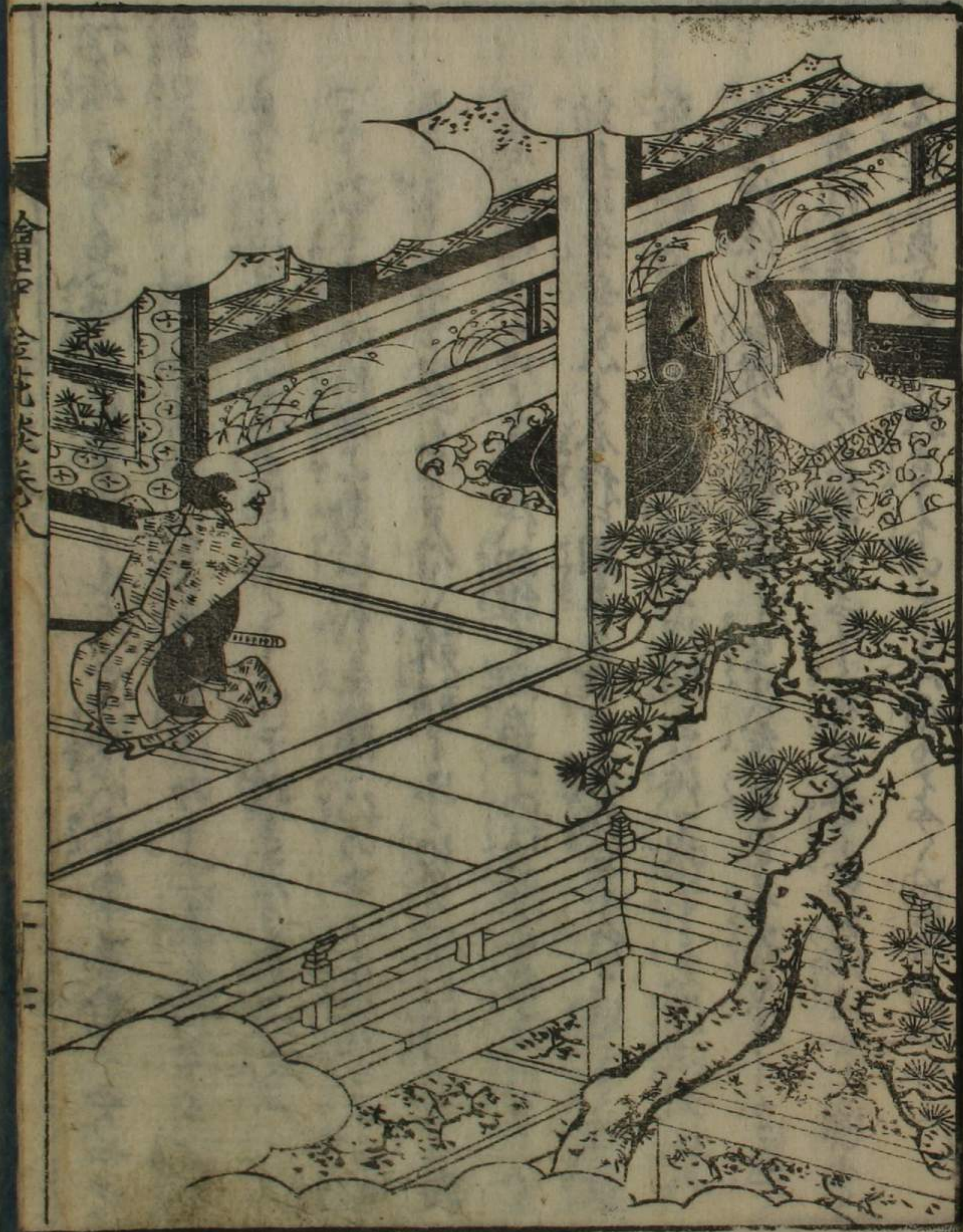
一



其二

繪本金瓶梅

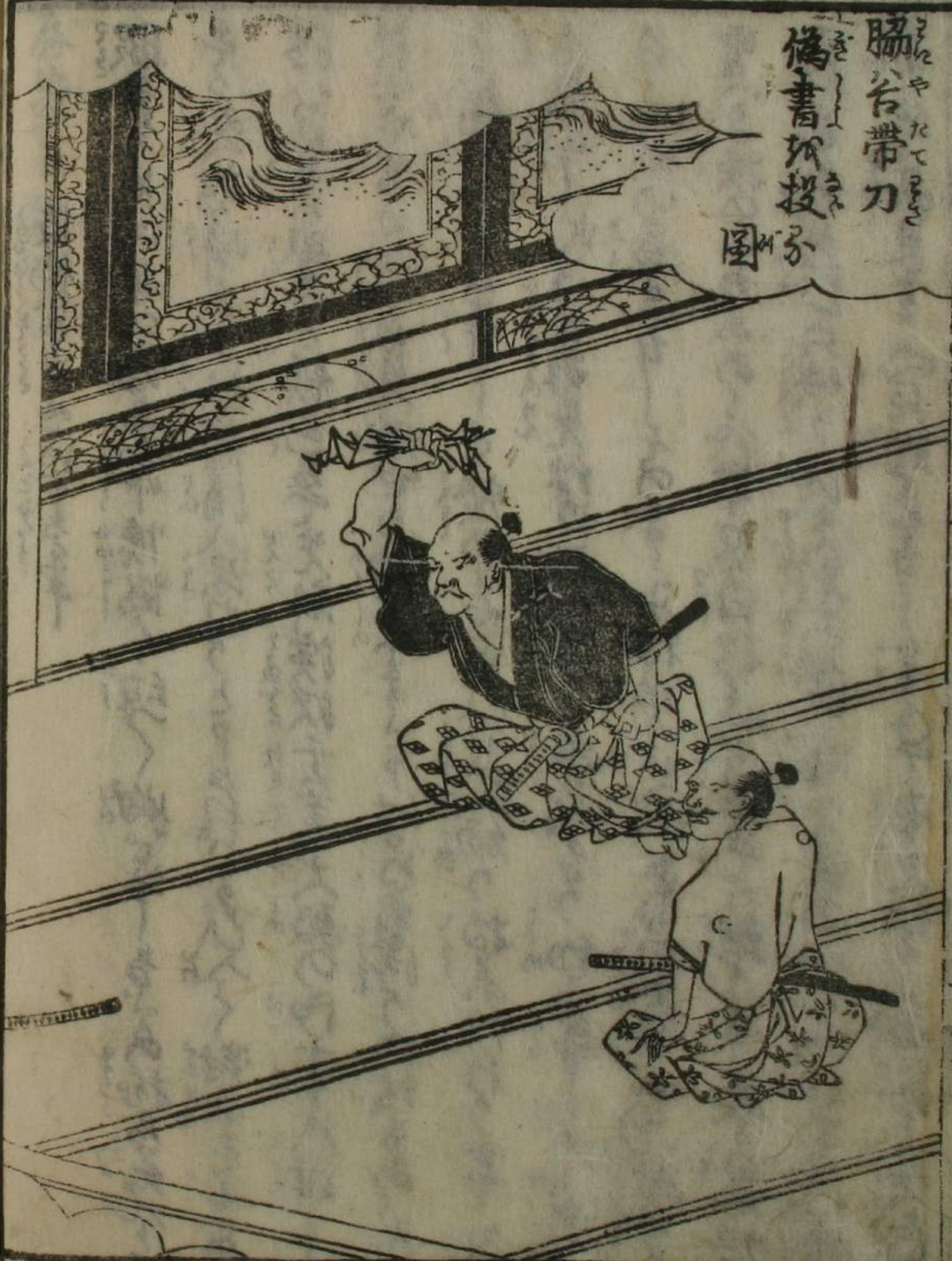
二



友衡の書を演説す
託す松ヶ崎の
をいしたまふ
圖

松平がゆりや運に愛あらんともは濱次事の中を愛ふ事やそ
 帯刀の對面、是等の終畢して後は出でてははれ、帯刀の
 見方、結ぶた大敵の志、向うや、しては、その文、
 一、中、入、方、何、右、上、府、致、し、去、結、同、ひ、の、来、も、先、達、ら、不、分、明
 あり、中、中、立、方、一、を、も、の、許、新、中、比、身、下、八、将、に、さ、る、殿
 不、存、致、物、と、その、と、女、千、代、幼、稚、と、同、家、中、の、仕、並、も、不、存、致、る、ひ、ま
 幼、存、は、辛、勞、と、い、く、今、程、の、國、も、多、く、お、治、交、千、代、も、進、く、と、成、長
 家、く、懸、昌、勿、論、中、無、新、得、事、成、許、出、候、不、為、を、志、僅、談、者、松、乃
 去、借、成、候、と、無、罪、人、と、罪、人、候、し、中、武、臣、も、是、為、も、宜、く、と、道、く
 不、存、致、直、後、は、致、し、く、致、さ、り、中、者、は、世、の、お、治、法、也、同、く、
 先、達、て、是、を、必、く、致、さ、り、下、り、片、肉、も、さ、く、肉、國、に、致、さ、り、
 二月十六日

と、ま、ま、り、偽、事、と、い、ふ、事、も、知、り、た、り、た、り、と、い、ふ、事、も、計、ら、れ、
 これ、を、今、成、持、者、の、み、み、無、道、の、者、成、廢、し、幼、君、の、害、を、除、ん、む、る、公
 せ、め、て、大、義、と、い、ふ、事、も、あ、る、御、事、成、お、見、付、ら、れ、
 恨、と、は、斯、く、あ、る、と、い、ふ、事、も、あ、る、御、事、成、お、見、付、ら、れ、
 堀、本、と、成、り、不、幸、の、起、り、と、い、ふ、事、も、あ、る、御、事、成、お、見、付、ら、れ、
 け、ん、と、い、ふ、事、も、あ、る、御、事、成、お、見、付、ら、れ、
 女、衛、の、真、實、的、の、智、を、成、績、の、某、は、多、く、は、し、ま、し、
 中、中、を、然、る、と、い、ふ、事、も、あ、る、御、事、成、お、見、付、ら、れ、
 御、事、成、お、見、付、ら、れ、
 たり、は、八、位、中、七、才、數、い、ま、し、御、事、成、お、見、付、ら、れ、
 たり、は、八、位、中、七、才、數、い、ま、し、御、事、成、お、見、付、ら、れ、



脇
台
帶
刀
偽
書
投
圖
家

糸
金
花
巻

十
六

面よみされぬ身は秋葉の如く不意の時ぞ若其候は携りては使合紙
辱むると云ひのうへに憤りて事もせざる若の再お見せ給て
至一あふ日比のは忠告も聞かざる道程なりと程瓜分してやめを焼く
うがらぬまゝの因封して積久等は此の由と大地を議のお違ひ
その文也

その方後今般大なる遠落し起上るははり一悦入事よみ給るよ
衆を難の思惟の何れも女千代成長し一は後万端を方々
相任せ入事よみ給る去兵庫に握取飛録書と録も有るは六何
く調ふも言有之は方波の言はくはるも是心は幼由
兵庫取と味いしは腹去活乃の事よみ對面し上りなむども
そ方の為不意存るは面をまへは方よみありは但せ別紙を以

二月十六日

友衛

市カトク

中へ我等の若衆と不の跡を念ふ外他事多きは辭書に記す以上

その別紙の文也

- 一 兵庫取并に勘定は毒を成りしと女千代と殺害すはあふま
- 一 乳母傳士を隠し起幼病由調書と利ひを當りりの瓜
竊ふと殺害す
- 一 某隠居は清法事兵庫取幼病由分をうしとりの櫛屋
同前の仕方近頃を乞ふ事こい
- 一 此そふ水多きを又連判仕候しとら後堂と借りしとら油乃
有まのいこい



金木義孝



あきしの
秋篠清八
源
中
走
る
子

金木義孝

十一

一 近き家の仕立も余り穉らざらん。いふ所。家等より。下より。増を
 小たきとりて。りき。た換らる友千代。みよ。夏。浦。い。処。集
 中。隠居。い。い。後。生。い。掛。を。出。現。在。ま。ま。我。お。お。お。
 い。い。い。ま。早。竟。身。指。不。の。流。右。左。候。い。我。ま。ま。ま。
 の。ま。他。い。不。仕。隠。言。い。過。き。候。候。事。ま。ま。
 一 隠居。後。意。い。禁。酒。と。定。む。い。ま。ま。ま。後。初。新。去。清。更。酒。
 中。一。指。を。指。系。給。い。い。不。ま。ま。い。近。智。い。老。毒。味。ま。め。い。い。
 後。多。病。言。付。お。果。い。早。竟。我。お。ま。毒。業。い。人。く。行。付。い。り。
 一 お。身。い。世。ま。り。の。我。お。果。い。も。不。苦。い。ゆ。も。友。千。代。
 為。お。の。い。一。方。る。い。次。存。命。せ。い。め。い。悔。い。我。お。若。業。い。深。り。
 後悔。生。ん。た。い。ま。い。

一 今村。善。を。ま。横。山。跡。三。若。妻。の。志。ま。ま。右。妻。の。浪。次。布。三。清。右。四。の。の。
 所。言。ま。り。り。す。め。い。い。何。も。我。お。ま。の。流。右。左。候。い。後。居。世。間
 一 取。沙。流。も。腰。わ。け。同。格。小。り。い。お。る。人。口。は。若。り。い。ま。う。い。い。ま。ま。情
 も。ま。ま。い。切。後。も。る。後。が。い。り。す。め。い。口。惜。事。い。い
 一 何。も。あ。る。も。ま。ま。い。我。お。の。側。小。付。添。日。頃。忠。言。も。行。は。れ。増。益
 小。右。妻。が。後。保。な。我。お。い。例。小。付。添。不。い。依。い。我。お。方。は。い。成。る。い。い
 一 我。お。若。の。隠。居。い。側。小。付。添。い。い。ま。ま。い。後。い。悪。事。り。す。め。い。ま。ま。
 一 難。事。い。ま。ま。い。新。り。付。い。い。い。い。い。
 一 今。方。是。也。い。ま。相。お。ま。い。我。お。方。へ。後。部。新。去。清。更。酒。最。乃。證
 一 云。の。証。文。候。い。無。中。筋。り。出。い。同。出。府。い。い。い。い。後。我。お。方。い
 一 手。書。毎。事。い。い。い。外。字。紙。小。難。事。い。い。い。今。方。後。目。い。い。い。い。

の相成と存する身分油の育まうたわらせのるめ初ハ猶亦
とゆらくとすいふ上

日

しまんこれ常力たれぬ物に毫もけしき書はね身はすむ君のしきし
とも思ふらびあまを眼力のおろろるるまよりま協とつらして眼
まの物辨るも忍ろくま今いほをぬたるま我為の物たること
これより支拂のち由圖く再び兵隊に支拂が思まのヤ案累りこと
まのまの訴状廿七ヶ條このまぬくすつものち廿七ヶ條の追訴の類
久と認め廣えの方を出しつる

繪本金花談卷之八終

